

第2回 番組審議会議事録概要

1. 開催日時

平成26年10月20日(月) 正午より

2. 開催場所

東京都港区台場2-4-8 フジテレビ本社 会議室

3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 杉浦克昭、藤原庸介、竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、森川富昭

株式会社サテライト・サービス

清水賢治、岡崎洋三、手塚久、峰岸淳、窪田正利、平野雄大、波止康雄、
関克哉、江尻教彰

株式会社フジテレビジョン

近藤雄介、福田淳一、門澤清太、永竹里早、鹿内植、

株式会社ジュピターテレコム

西山彰、森彩

4. 議題

1) 「第1回ドラマ甲子園 大賞受賞作品 『十七歳』」

平成26年8月30日 18時からVTR放送 ほか再放送有り

2) 「プロ野球ニュース 2014」

平成26年 プロ野球公式戦開催日 23時から生放送 ほか再放送有り

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

「第1回ドラマ甲子園 大賞受賞作品 『十七歳』」

- ・17歳の女の子が書いたシナリオとしては、よくできている。
- ・自分たちの頃と比較して先生に対する会話、高校生カップルの会話に新しさを感じた。
- ・プロジェクト自体は面白いが、作品にフジテレビらしさが無かった。
- ・脚本家を育てるという目的はいいが、映像制作にも力を入れて欲しい。
- ・受賞者の今後の育て方が大切。
- ・オリジナルの脚本を直さずに番組にした「勇気」が感じられた。
- ・携帯が出てこないの、いつの時代を描いた脚本なのか謎だった。

- ・題材が今にそぐわないので、もっと時代を反映している作品を期待する。
- ・登場人物が今の時代にしては、とても純朴・素直なので、作者がどういう気持ちで描いたのか興味がわいた。
- ・共感したが、古く感じた。最終成果物まで全部学生に作らせても面白いのでは？
- ・YouTubeを使うなど、もっとデジタルを使って視聴者に選考させる方法もあるのでは？
- ・観念的な部分と具体的な部分が混ざり合って初々しく感じた。

「プロ野球ニュース 2014」

- ・初めて見たが、地上波のニュースより中身が濃かったので面白かった。
- ・これだけの内容を23時に生放送しているのは、最新の編集技術の力ではないか？
- ・全チームに中立だが、誰に向けるのかによって、違うやり方があるかもしれない。
- ・試合のダイジェスト映像にテロップもSEも入っておらず、臨場感が感じられた。
- ・試合の結果だけでなく、勝負の過程や影響にまで言及しているのがいい。
- ・有料放送ならではのリッチなプロ野球ファンに相応しい番組だと感じた。
- ・内容はいいが、古く感じたので、どんな人がお金を払っているのか疑問に感じた。
- ・コメントが仲間内のおしゃべりのようで、もっと内容をつめて欲しかった。

制作サイドからは、

「第1回ドラマ甲子園 大賞受賞作品 『十七歳』」

- ・古く感じる作品かもしれないが、古典的な文章やセリフが受賞者の持ち味で、審査員には新鮮に感じられ、セリフの展開も他の作品に比べ良かったので、選出した。
- ・実際に会って、制作スタッフを引っ張っていけそうだったし、撮影の現場でも、青山なみさんは自分のやりたい事を明確に指示していた。
- ・SNSを更に有効活用しプロジェクト自体の認知を上げる工夫をすべきだった。
- ・今回は全編福井で撮影し、今後、福井テレビでも放送される。次回からも受賞者の地元を自然などをアピールできるということでも広げていきたい。
- ・高校生のパワーを生かせるよう次回以降も継続していきたい。

「プロ野球ニュース 2014」

「試合毎にストーリーを作る。選手の人生を描く」をテーマに、連日6人のディレクターが制作している。

- ・テロップは入れず、イニングとスコアはスコアボードで表現し、球場ベースであることを大切にしている。
- ・コメント用の原稿も無いので、アナウンサーにとっても力量の問われる番組である。
- ・地上波のニュースを見て満足できないコアファンが見て満足できる、かゆいところに手が届くような作り方が、この番組の心意気である。

その他

「地上波、BS、CS のそれぞれの棲み分けについて」（藤原委員ほかの質問に対して）

・地上波は、楽しくフジテレビらしくて視聴率を取ることが目的なので、企画が均一になりがちである。BS は無料広告放送なので、視聴者層に合わせた番組が増えている。一方 CS は少ない制作予算で、CS でしか見られないオリジナル番組を頑張って作っていく。三波を一部署で編成したほうが差別化できるという意見もあるが、三波が同じ内容になってしまう危険性もあり、それぞれが自由に考えていくほうが多様性に繋がるという理由で、現在は別組織で編成している。

・予算が少ない中で、いかに有料放送として視聴者に支持されるオリジナル番組を作るか、知恵を絞っている。3年ほど前にオリジナルドラマを作ったが、地上波と同じやり方をしはつまらないチープなものになるので、そうならないように撮影方法を工夫した。これからは各チャンネルをインターネットでも視聴できるようにしたい。これもオリジナル番組の比率が高いからできると考えている。

5. 報告事項

次回の開催の案内。

今回は平成 27 年 3 月後半の開催を予定。

議題は「フジテレビ NEXT」「ディスカバリー・チャンネル」の番組の予定。

平成 27 年 4 月サービス開始のモバキャスを実際の端末で紹介する予定。